

須賀川市立小中一貫教育校「稲田学園」令和2年度学園だより

とう 雲 稲 雲

第10号

令和2年8月28日発行

発行者：校長 小貫 崇明



○2学期がはじまりました～引き続きコロナに負けない対策を～



18日間という短い夏休み後の2学期が、8月19日（水）から始まりました。当初の計画では83日間の2学期でしたが、新型コロナウイルス感染症対策のため臨時休業となった分を取り返すため、6日間増やして、全部で89日間という例年よりも長い2学期になります。

始業式の校長式辞では、「今日から2学期が始まりましたが、2学期も1学期までと同じように、手洗いうがいや手指の消毒、三密を避けディスタンスをとるという『新しい生活様式』にずっと取り組まなければなりません。大変かもしれませんが、自分と友達、そして大切な家族を守るためにも、新型コロナウイルス感染を食い止める努力をこれからもがんばっていきましょう。」と確認いたしました。

（上の写真は、始業式で2学期の抱負を述べる児童生徒代表）

コロナ禍でも感動授業！感動体験！

そして、2学期は1学期にやり残してきた大きな行事もふくめてイベントが盛りだくさんです。子どもの成長が見える楽しい授業の充実、そして修学旅行や学習旅行、運動会や秋華祭、陸上競技交流大会や駅伝大会、そして新人戦と、1年生から9年生までの全員で稲田学園を盛り上げていきます。（写真は2年生の虫捕り、4年生のパソコンの授業）



○子ども110番の家～子どもたちの安心・安全のために～

「子ども110番の家」は、地域ぐるみで子どもたちの安全を確保することを目的として、身の危険を感じた時などの「緊急時に安心して助けを求め駆け込める場所」として須賀川市教育委員会と稲田学園が民家、店舗、事業所等に協力を依頼して設置されています。稲田地区内にはこの「こども110番の家」が16軒あり、夏休み中に校長、教頭の3名でごあいさつに訪問いたしました。

ご協力いただく家には、それぞれ目立つ場所に写真のような表示がされています。子どもたちには、不審者や熊などの野生動物に遭遇するなど身に危険を感じた場合は逃げ込めるように、通学路にある表示を確認するよう指導しています。



○コロナとともに熱中症にも注意して下さい！

8月末でも最高気温が35℃前後となるような日が続いています。学校での体育の授業や部活動等では、活動時間や内容を変更する対応をしています。ご家庭でも、こまめな水分補給など、熱中症対策の徹底をよろしくお願いいたします。

○支部駅伝で特設駅伝部が躍動～史上初の無観客大会～



8月27日（木）に鏡石町鳥見山陸上競技場周辺コースにおいて開催された岩瀬支部駅伝競走大会では、厳しい暑さの中、特設駅伝部の選手一人一人の練習の成果や頑張りが見られる大会となりました。無観客で静かな大会となりましたが、走者以外の

選手や役員の先生方の拍手に励まされ、女子が10位、男子は11位という結果でした。

また、大会参加を前にした24日（月）には、駅伝選手壮行会を開催したのですが、今まで新型コロナウイルス感染症対応のため中体連の総合大会等が中止となってきたこともあり、今年度初めての壮行会となりました。9年生が中心の応援団は、少ない練習機会でも見ごたえのある勇ましい応援を披露していました。



○2学期の最初に実施する1学期期末テスト



8月21日（金）、7～9年生の第1学期期末テストを実施しました。いつもの年であれば当然1学期末に行うテストですが、今年度は新型コロナウイルス対策による臨時休業のため2学期の初めにずれ込みました。そのためこの夏休み中は、テスト範囲の勉強に力を入れた生徒が多かったようです。テスト当日は気温30℃以上の暑い日となりましたが、各学年とも朝自習の時間から休み時間も真剣に復習し、学習してきた成果を発揮しようと頑張っていました。

それぞれの努力が実り、良い結果が出るといいですね。通知票の配付は9月14日（月）です。

○第2回地域運営協議会～地域とともにある学校をめざして～

8月25日（火）、第2回地域運営協議会を開催いたしました。この会議は、夢と誇りを持った稲田の子どもたちの育成を目指して、子どもたちの抱える問題や学校運営の改善について意見を出し合うものです。今回は、新型コロナウイルス感染症対応、地域とともにある教育の推進、児童生徒の登下校時の事故防止、という3つのテーマでグループに分かれて話し合いを持ちました。



★ことばのちから(10)「戦争は地震じゃないからやめられるやろ」

戦後75年となる終戦記念日の8月15日（土）に、この言葉を思い出しました。確か教師になって10年くらいの頃、当時関西のとある養護学校（現在の特別支援学校）に在学する生徒が語った言葉を集めた本を紹介され、この言葉と出会い大きな衝撃を受けたのでした。

いくら科学が発達しても、人間は地震のような天災は止められませんが、戦争という人間の行為は何もしなければ成立せず、戦争によって人が死ぬという悲劇は止めることができます。こんな当たり前なことに人類はなぜ気づかないのだろうと思うのです。

